

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。	部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備(アフターコロナ対応としての集まる場の整備)新規研究PJの立案および他機関との積極的な連携の実施	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ILSI Japan/NITE 合同シンポジウムを3月6日に、三菱ケミカル株式会社 Science & Innovation Center にて開催。食品産業において求められる微生物検査と法令対応をテーマに7題の講演があり、96名が参加。 部会長団の引継ぎを実施。 今後の部会運営の方針検討中。 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を4/12(金)に実施。次回は7月頃に開催予定。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動無し。 <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動なし(追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中)。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部会運営方針の策定 各分科会の研究活動の推進 食品微生物関連の共通課題抽出のための部会全体での議論 各種活動を推進するための関連団体等との連携 	(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会 (独)製品評価技術基盤機構

			<ul style="list-style-type: none"> ・活動なし（検証試験の対外発表に向け、結果を取り纏め中）。 (4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 ・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。 <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>		
食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ① 食品リスク研究に関する勉強会を3回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。 	<p>4月12日に部会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 勉強会は本年8月、10月、12月を目途に3回開催とする。回毎の勉強会担当者を決定し、準備を開始した。 ② 進捗なし。 	第1回勉強会は国立医薬品食品衛生研究所の小川久美子先生、元国立医薬品食品衛生研究所の畝山智香子先生をお招きし、二酸化チタンの安全性と国内外の規制についてお話しいただくこととなった。8月29日にハイブリッドで開催する。	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—	—	—	—
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト（AATプロジェクト）					
全体進捗	<活動目的> 1) 動物に依存しな	・研究WGテーマ推進による評価	・3月15日 プロジェクト全体会議を開催（外部会議室（森下）&	・3/19にプロジェクト参画企業メンバーを対象として、食品	・国立医薬品食品衛生研究所（国衛研）、独立行

	<p>い、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p> <p>2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。</p>	<p>技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。</p> <p>・情報収集・発信（国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催）。</p>	<p>Web)。</p> <p>・プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジェクトの外部連携活動の状況について共有。</p>	<p>機能性分野での動物によらない評価技術に関する勉強会を開催（外部会議室（森下） & Web）。</p>	<p>政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)、アカデミア等の専門家</p> <p>・関連学会（日本動物実験代替法学会等）</p> <p>・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</p>
体内暴露予測ワーキンググループ (WG)	<p>食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装</p>	<p>① 昭和薬科大学山崎研に構築した in silico 動態予測モデルの実装</p> <p>② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握</p> <p>③ ケースレポート対象化合物の体内曝露予測</p>	<p>① in silico 動態予測モデル活用のためのガイダンス (AAT メンバーに共有用) 作成を進めた。また、本予測モデルを簡便に利用するための実行ファイルを作成した。</p> <p>② in silico 動態予測モデル活用の課題と解決アプローチについて協議した。</p> <p>③ 進捗なし</p>	<p>2024 年上期：in silico 動態予測モデル活用のためのガイダンスの作成</p> <p>2024 年下期：in silico 動態予測モデルの論文化検討</p>	
データベース WG	<p>食品成分の既存毒性情報(文献等)を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に</p>	<p>有害性評価支援システム統合プラットフォーム (HESS) を用いた食品成分毒性試験</p>	<p>昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6</p>	<p>データベースの公開に向け、知財の課題について対応継続 (有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等)。</p>	

	毒性情報を収集することも検討する。	データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法のAAT参画メンバーへの公開	月までに実施。12月の全体会議にて合わせて176種のデータベースの公開をもって本WGの活動を一旦完了とすることで合意済。データベースのHESSへの登録や知財の課題について、HESSを管理している独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) と相談を実施し、特に有償文献由来のデータについて、発行元と確認する方針とした。		
ケースレポートWG	NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測WGとデータベースWGの活動と協力し、in vitro assay系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。	第1弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験からin vitro PoDを求め、評価スキームの妥当性を検証する。	植物アルカロイドである riddelliine を評価対象とし、Bayesian BMD法 (EFSAモデル) を用いてラット肝細胞の文献報告から算出した in vitro PoD と、ラット反復投与試験報告から算出した in vivo PoD における曝露濃度予測値とを比較することで、ラット評価系における課題の抽出と評価手法の妥当性の検証を実施中。さらに、評価対象をラット in vitro および in vivo 毒性報告のある既存化合物に広げて評価の実績を重ね、BMD評価の有用性の確認を併せて実施している。	ラットでの検証を実施した後、同様のステップでヒトに対する評価を行うことで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。 Riddelliine および既存化合物での課題および検証結果をまとめ、第37回日本動物実験代替法学会 (2024年11月29日~12月1日) での発表を計画している。	
企画運営WG (国際ワークショップ & シンポジウムWG)	動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、	評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロ	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。第1回目の講演会は、熊本大学の首藤先	食品の機能性評価に関する講演会は年内に3回の実施を予定している。また、食品安全委員会による講演会/勉強会の実現へ向	

より変更)	食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。	プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。	生による「機能性食品開発に資する有用植物探索ツールと C エレガンス健康寿命評価技術」と題し、森下文化センターを主会場とした Zoom でのハイブリッド方式で 2024 年 3 月 19 日に開催した。参加者は AAT プロジェクト参画企業所属の方とし、現地参加者と Web 参加者合わせて 50 名が聴講した。 現在は第 2 回目の準備を進めている。	けて、5 月 8 日に食品安全委員会事務局を訪問し内容の具体化へ向けて打合せを実施する。	
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
バイオテクノロジー研究会	バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の	1. ERA プロジェクト調査報告(年 4 回) 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ 3. 第 16 回 ISBR (International Society for Biosafety Research) 2023 への安全性評価の	・2024 年度第 1 回研究会を 3 月 19 日に開催。 1. 2023 年 4 月の ISBR での DT パラレルセッションの内容を Frontiers in Bioengineering and Biotechnology に投稿、英語論文、和訳と要約を作成、次回の研究会時に関係省庁へ配布することが報告された。 2. 2023 年 12 月開催 高度精製 WS の開催概要を機関誌「イルシー」No.158 に投稿した原稿を確認。出版は 5 月予定であることが報告された。 3. JBA Food Plus 研究会と 3 月 12 日に意見交換会を実施。今後も	・「植物バイオテクノロジー調査報告」No.66 の発行、送付先の見直し、配布 No.67 のレビュー、発行、配布、送付先の見直し。 ・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿。	農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 & つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院

	発展に貢献する。	<p>専門家の派遣</p> <p>4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</p>	<p>情報交換を継続することが報告された。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.66 原稿のレビュー及び今後の運営方法について課題が定期され、議論された。</p> <p>5. TC34/SC16 に関する情報のアップデートが当研究会の名誉会長からなされた。</p> <p>6. 遺伝子組換え青色胡蝶蘭「Blue gene」の研究開発に関して機関誌「イルシー」No. 161 に掲載が決定。出版は 2025 年 2 月。</p>		千葉大学大学院園芸学部
--	----------	--	---	--	-------------

栄養健康研究会

<p>栄養研究部会</p>	<p>「健康寿命延伸」はグローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康寿命延伸」をキーワードとした活動を継続する。</p>	<p>「健康長寿延伸」のための最新のエビデンスを継続して発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公開セミナー(有料)を Zoom ミーティングで 1 年に数回開催する。 ●セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度から活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催している。 ・部会を対面開催し、第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」(6 月 19 日 Zoom 開催)までの作業スケジュールの確認と今後の活動について意見交換した(4/9)。 ・2024 年度の公開セミナーシリーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の通り、第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」を開催予定。 <p>日時：6 月 19 日(水) 13:20～15:30</p> <p>場所：オンライン (Zoom)</p> <p>定員：480 名</p> <p>講師と演題：成田美紀先生(東京通信大学 人間福祉学部)「健康寿命の延伸に向けた老年期の栄養・食生活の在り方を再考する」、清野諭先生(山形大学 Well-Being 研</p>	
---------------	---	---	--	---	--

			<p>は第4回で一旦終了する。</p> <p>・その後、可能な限り対面で部会を開催し、2025年度以降の活動について議論を継続する。</p>	<p>研究所)「これからの高齢者の身体活動・運動のあり方を考える：最新のガイドライン等を踏まえて」</p> <p>参加登録：5月1日から ILSI Japan HP の専用サイトで登録受付開始</p> <p>・以下の通り、部会を開催予定。</p> <p>5月15日(水)(オンライン)</p> <p>9月20日(金)(対面)</p>	
GR プロジェクト	食品・食事の血糖応答性の簡易評価法（GR法）の確立と普及	GR法の確立・発表論文発表 他施設研究を基礎とした測定系の安定化および簡易化を目標とする	これまでの施設数で行った測定結果をまとめ論文として発表する。 測定安定化をさらに図るため大学等の施設での検討を依頼し結果をまとめる。	論文再投稿準備 GR法詳細条件の検討 GI値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター
茶類研究部会・茶情報分科会	茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—	—	—	—
CHP (Center for Health Promotion)					
Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	超高齢化が進む国内において、働きざかり	➤ ヘルシーエイジングのためのプログラム	➤ 墨田区委託事業 ・2023年度すみだテイクテン教室報	➤ 論文投稿準備 ➤ ホームページリニューアル	✓ 石巻専修大学 ✓ 鹿児島大学

<p>“身体活動と栄養”プロジェクト</p>	<p>の人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ の開発・普及 介護予防教室の開催（自治体、社会福祉協議会、企業） ➤ 地域リーダーの育成（大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター） ➤ 論文等、科学的成果の発信 	<p>告書提出（3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年度すみだテイクテン春教室開催（4/25, すみだ生涯学習センターユートリヤ） ➤ 学会発表（共同演者） 第34回日本老年医学会九州地方会「地域在住高齢者における身体活動および食品多様性と軽度認知障害との関連」（3/2, 鹿児島大学稲盛会館） ➤ 共著論文受理 雑誌名：Annals of Geriatric Medicine and Research タイトル：Associations of eating out and dietary diversity with mild cognitive impairment among community-dwelling older adults（4/11公開） 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 島根大学 ✓ 札幌医科大学 ✓ 東京都健康長寿医療センター研究所 ✓ 国立健康長寿医療センター ✓ 墨田区 ✓ 横浜市社会福祉協議会 ✓ 岩国市社会福祉協議会 ✓ 吉賀町社会福祉協議会 ✓ 津和野町シルバー人材センター ✓ 益田市シルバー人材センター
<p>Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト</p>	<p>途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP)のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ フィリピン：「フィリピンの栄養強化米プロジェクト2022（調査研究）」2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。 ➤ ベトナム：「ベ 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 本年度プロジェクト立案無し ➤ 本年度プロジェクト立案無し 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ Food and Nutrition Research Institute (FNRI：フィリピン食品栄養研究所) ✓ National Institute of

		<p>トナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p>			<p>Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p>
		<p>➤ ミャンマー：「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。</p>	<p>➤ 本年度プロジェクト立案無し</p>		<p>✓ National Institute of Nutrition</p>
		<p>➤ インドネシア：「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」</p>	<p>➤ ILSI 対応箇所を含むプロジェクトの最終報告書が大林組から NJPPP へ提出され、今年度終了 (3/14)</p>	<p>➤ 大林組の令和 6 年度活動継続に合わせて対応を検討</p>	<p>✓ ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.)</p>

		ビジネスモデル構築、並びに2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。			
CHP 全体	日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGsに基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SUN Business Network Japan (仮称: SBNJ) 事務局機能誘致に向けた活動継続。 ➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。 	➤ 進捗無し	➤ ILSI Japan の役割具体化を目指す	✓ SUN Business Network Indonesia
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	9月19~20日開催 予定の Asia Life Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報交換会)への参加、情報交換	<p><進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌投稿: 投稿・初校確認終了 ・4/25 委員会開催。以下の課題について意見交換し検討を進めた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ① ALSIN 会議・シンポジウム対応 <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール・参加形態・発表テーマ等の詳細確認 	5月下旬から6月上旬に委員会を開催し、以下について検討を進める。 ALSIN 会議・シンポジウム対応(詳細確認までは昨年を参考に下記スケジュールで進めることとする)	

			<ul style="list-style-type: none"> ・発表テーマ・発表者の確定 ・シンポジウム講師打診 ② 6月 ILSI 台湾の訪日対応 <ul style="list-style-type: none"> ・6/21 意見交換会対応 		
食品機能性研究会・AI 栄養・機能性研究部会					
AI 栄養機能プロジェクト分科会	実生活から創出される莫大な量のリアルワールドデータについて、最新のデータサイエンスおよび AI 技術を活用し、様々な生活習慣と健康との関係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能とする AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予測モデル論文化 ・フレイルナレッジグラフ作成 ・ナレッジグラフスキル（育成） ・北大阪健康医療都市（健都）での発信 	AI 栄養・機能性研究部会第 1 期報告会が 3 月 5 日に開催されており、AI 栄養機能プロジェクト分科会との合同で成果と総括について発表した。		
AI ダイアトロフィ研究部門分科会	数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・代謝モデルの領域拡大 ・機能伝達経路のイジングモデル ・AI 教育 			
情報委員会・編集部会	・調査・研究活動とその成果の発表	1. 活動報告配信（年 6 回）	1. 活動報告 ・2024 年 1, 2 月配信（3 月）。	1. 部会活動報告の配信（1 月、3 月、5 月、7 月、9	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学情報の普及 ・ 国内外の関連機関との交流・連携 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 機関誌「イルシー」の発行（年4回） 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（年4回）（女子栄養大学出版部との共同事業） 4. 種々出版物発刊のコーディネーター 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 158号：編集中（2024年5月発行予定） 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 123号：2024年3月発行（1か月遅れ） ・ 124号：編集中（2024年5月発行予定） ・ 125号：編集中（2024年8月発行予定） ・ 126号：編集準備（2024年11月発行予定） 4. 「栄養学レビュー」誌展望 <ul style="list-style-type: none"> ● 来年以降の対応について編集委員と個別面談（3/15,22,25）、その結果を踏まえ全体面談を実施（4/22）。 ● 女子栄養大学出版部と本件について、相談（5/1）。 	<ul style="list-style-type: none"> 月、11月） 2. 機関誌「イルシー」の発行（2月、5月、8月、11月） 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（2月、5月、8月、11月） 	
--	--	---	--	---	--

【事務局からのお知らせ】

<p>理事会</p>	<p>第3回理事会が令和6年4月17日（水）に味の素本社の会議室にて Hybrid 形式で開催された。</p> <p>1. 決議事項</p> <p>○本部への拠出金について</p> <p>2024年のILSI年次総会において各支部が総会開催費用を負担することが重要であると決議がされ、ILSI Japanは、USD 6,500を負担することとされた。以前はそのような支出を支部が負担したことがないこと、負担決議にILSI Japanのメンバーが参加したのか、また、一旦、前事務局長が負担金を断ったのに返答がなかった事実があったことなど種々議論した結果、ILSI Japanの財政が現在脆弱なため支払わない前提で本部に疑問点を確認することとした。</p>
------------	--

	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 本部情報 欧州が立ち上げた「ポストバイオティクス」プロジェクトの説明と本部の4つのワーキンググループの活動内容を事務局長が説明した。</p> <p>2) 支部情報 イ) ILSI Taiwan の日本訪問について、日程(6/17-22)と訪問先について事務局長が説明した。 ロ) 第2回 ALSIN 会議が今年、韓国で開催されること、会議前のミニ・シンポジウムにヘルス・クレームの日本の専門家の参加を要請されたことを事務局長が説明した。</p> <p>3. その他 ILSI Japan の財政課題を早急に検討することを理事より事務局に要望された。</p>
事務局	<p>(1) 本部グローバル拡大理事会/事務局長会議(3/26, 27))</p> <p>1) 本部総会(経費総括、参加者数、今後の本部総会の在り方WG報告) 必要性: 科学的リーダーシップの維持、科学的協働、科学教育、メンバー参画 ポイント: 達成すべきポイントを再考、政府関係者の参画(必要な議論は何)、優先順位付け、多くのテーマを一度に議論、スピーカーの選定、開催場所(リゾート地) ⇒支部総会との接続、他団体との共催、完全オンライン、絞ったテーマで短期間、開催頻度</p> <p>2) ILSI Europe Postbiotics project (ポストバイオティクスの認識に関し現状把握、認識向上) 状況紹介</p> <p>3) ILSI スポンサーシップガイドライン策定</p> <p>4) ILSI としての科学的関心分野まとめ</p> <p>5) ILSI 新規ブックレット策定作業</p> <p>6) 本部が進めている作業部会情報(科学的関心領域、今後の総会の在り方、スポンサーシップガイドライン、コミュニケーション)</p> <p>(2) 他支部活動</p> <p>1) 台湾支部訪日対応(3/28~4/26) 6月17日(月)~22日(土)の期間来日。食品企業の研究所、工場、ミュージアム訪問をアレンジ。 ✓ ILSI Japan 研究部会長へ情報交換会議への参画希望を確認。 ✓ 国際協力委員会に対応を要請</p> <p>2) 韓国支部(4/8, 9) 第2回 ALSIN 会議開催の件(9/18~20) ✓ ミニシンポジウム: “Health claims over the world in regulatory systemic aspects”を計画。日本からのアップデート情報提供の要請あり。</p>